

# 京都教育大学における 租税教育に関する授業

## 【各グループ作成指導案】

取組事例	教室	グループ(班)	リーダー	ページ
事例1	B2	1	米澤	1
		4	林	4
		7	天羽	9
事例2	B3	3	井保	12
		5	中森	16
		6	酒井	20
事例3	B4	2	笹木	24
		8	酒井	30
		9	山本	35



平成30年12月20日(木)

【1 班作成指導案】

【中学校】 事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」

ポイント> 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・ 第3 学年> 社会科> 公民的分野> (2) 私たちと経済> イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・ 公共サービスの財源を賄う税の意義・役割や基本的な仕組みを理解する。
- ・ 政府の経済活動（財政）に対する関心を高め、社会資本の整備、社会保障の充実、環境の保全など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して政府が果たしている役割や、日本の財政の課題を理解する。

○評価規準




- ・ 税の意義や役割、基本的な仕組みを理解している。（知識・理解）
- ・ 市場の働きに委ねることが難しい諸問題を具体的に考えることができている。（思考・判断・表現）

○指導計画（5 時間・各 1 時間）

第1時 政府の仕事と租税<本時>

- 第2時 財政の働き
- 第3時 社会保障と国民の福祉
- 第4時 公害の防止と環境保全
- 第5時 日本経済の課題

○本時の学習（1 / 5 時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 「税の意義や役割について、自分の言葉でまとめてみよう。」</p> <p>2 身近な税の使いみち（学校教育費）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公立中学校に通う生徒一人当たりの年間教育費（国と地方公共団体の負担額）を予想する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学生</p>  <p>約 <del>894,000</del> 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学生</p>  <p>約 1,022,000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>高校生(全日制)</p>  <p>約 <del>1,006,000</del> 円</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">(平成 27 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月謝に置き換えると、毎月約 8 万 5 千円が必要となることを知る。 → さらに一日約 4 500 円が必要なことを知る。</li> <li>・ <del>教育費にかかる国や地方公共団体の歳出金額を調べる。</del></li> <li>・ <del>国や地方公共団体が教育費を負担(支出)している根拠を調べる(憲法第 26 条第 2 項「義務教育は、これを無償とする」)。</del></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題を提示する。</li> <li>☆ 国税庁 HP「税の学習コーナー（発展編）」、副教材</li> <li>・ <del>歳出金額をイメージさせるために、100 万円の束が 1 cm、1 億円が 1 m、1 兆円が 10 km などと考えさせる。</del></li> <li>・ 教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。</li> </ul>
展開	<p>3 税の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <del>税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。</del> → 「街のみんなが利用する」、「営利目的ではない」、「街に必ず必要」など</li> <li>・ 税金によって建てられた施設とそれ以外の施設の写真を挙げ、「税金によって建てられた施設かそうでないか」を当てるクイズをし、どのような施設に税金が用いられているかを理解する。</li> <li>・ 税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。</li> <li>・ 政府の役割は、利潤を追求する民間では供給されにくい公共施設や公共サービスの提供にあり、その建設や運用の費用には税金が使われている（税は公共サービスの財源である）ことを理解する。</li> </ul> <p>4 税の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DVD を視聴し、税のある暮らしとない暮らしとを比べ、税がなければ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共サービスは、私たちの暮らしに欠かせないものであること、その提供には費用がかかり、税はその費用を賄うものであることを理解させる。</li> <li>☆ 国税庁 DVD（「ご案内します アナザーワールドへ」(15 分 57 秒)）</li> </ul>

【1 班作成指導案】

展開

どのような社会になるのかを考え、税の必要性を理解する。  
 ・納税者が納税の義務を果たさなかったらどうなるのかを考える。  
 ・税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分ち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」として理解する。

5 税の仕組みや種類・分類

~~・会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。~~  
 ・どのような税金があるのか質問する  
 →消費税  
 ・そこから税金が身近にあることを説明し、理解させる。

~~【家】住民税（住むこと）、固定資産税→【会社】法人税、所得税（給料）→【外出】自動車税、ガソリン税（揮発油税）、消費税（買い物）、相続税（葬儀場）→【帰宅】酒税、たばこ税など~~

・税の基本的な仕組みや種類・分類などを理解する。

【所得税】

~~⇒会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する（年末調整）。~~  
~~⇒事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。~~  
 →ある人の給料の具体例を挙げながら、所得税とはどのようなものなのかを理解させる。

【消費税】

→生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。  
 ・消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように一致する税は直接税に区分されることを理解する。  
 ・これまでに学習した税の種類や分類（直接税と間接税、国税と地方税）を整理する。  
 ・表を作って税の種類を理解させる。（国税・地方税・直接税・間接税）  
 ・所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。  
 ・税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。  
 →等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など）  
 →負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））

~~6 選挙と税~~

~~・過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考える。~~  
~~⇒選挙の争点の多くは、税の使いみち（どのような政策を行うか）や税の集め方（その財源をどのように確保するか）に関わる問題であることに気付く。~~  
~~・税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。~~

・「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書し、認識の共有化を図る。

☆イラストなど

・身近な生活と税が密接に関わっていることに気付かせる。

☆国税庁 HP「税の学習コーナー（発展編）」、副教材

・e-Tax など ICT を使って確定申告や納税ができることに気付かせる。  
 ・生徒も消費税を負担している税の負担者であることに気付かせる。



・「公共サービスの費用は、広く公平に分ち合う必要がある」と学習したことを再確認する。  
 ・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることに気付かせる。

~~・総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料（指導上の政治的中立の確保等に関する留意点）の記載に留意する。~~

☆新聞記事

~~・選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・減税などのヒントを出しながら考えさせる。~~

【1 班作成指導案】

<p>展 開</p>	<p><del>・主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解する。</del></p> <p><del>・自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。</del></p>	
<p>ま と め</p>	<p>7 <del>本時のまとめとして、「税の意義や役割について考えたこと」をワークシートに自分の言葉で表現する。</del></p> <p>7 「今日の授業を踏まえて、なぜ税金が必要なのか」をワークシートに自分の言葉で表現する。</p>	<p>・生徒の言葉でまとめさせる。</p>

## 【4 班作成指導案】

### 【中学校】事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」

ポイント> 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

#### ○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

#### ○単元の目標

- ・公共サービスの財源を賄う税の意義・役割や基本的な仕組みを理解する。
- ・政府の経済活動（財政）に対する関心を高め、社会資本の整備、社会保障の充実、環境の保全など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して政府が果たしている役割や、日本の財政の課題を理解する。

#### ○評価規準

- ・税の意義や役割、基本的な仕組みを理解している。（知識・理解）
- ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題を具体的に考えることができている。（思考・判断・表現）

#### ○指導計画（5時間・各1時間）

##### 第1時 政府の仕事と租税<本時>


第2時 財政の働き

第3時 社会保障と国民の福祉

第4時 公害の防止と環境保全

第5時 日本経済の課題

#### ○本時の学習（1／5時間）


	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 <del>「税の意義や役割について、自分の言葉でまとめてみよう。」</del></p> <p>・国や地方公共団体が教育費を負担（支出）している根拠を調べる（憲法第26条第2項「義務教育は、これを無償とする」）。</p> <p>2 身近な税の使いみち（学校教育費）</p> <p>・公立学校に通う生徒一人当たりの年間教育費（国と地方公共団体の負担額）を予想する。</p> <p>小学生                  中学生                  高校生（全日制）</p>  <p>（平成27年度）</p> <p>約894,000円      約1,022,000円      約1,006,000円</p>	<p><del>・学習課題を提示する。</del></p> <p>・教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。</p> <p>☆国税庁HP「税の学習コーナー（発展編）」、副教材</p> <p><del>・歳出金額をイメージさせるために、100万円の束が1cm、1億円が1m、1兆円が10kmなどと考えさせる。</del></p> <p>・車一台が買えることを示</p>

【4 班作成指導案】

	<p><del>・月謝に置き換えると、毎月約8万5千円が必要となることを知る。</del></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育費にかかる国や地方公共団体の歳出金額を調べる。</li> </ul> <p><del>・国や地方公共団体が教育費を負担(支出)している根拠を調べる(憲法第26条第2項「義務教育は、これを無償とする」)。</del></p>	<p>す。</p> <p><del>・教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。</del></p>
<p>展 開</p>	<p>「税の意義や役割を考え、仕組みについて理解する」</p> <p>3 税の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。 →「街のみんなが利用する」、「営利目的ではない」、「街に必ず必要」など</li> <li>・政府の役割は、利潤を追求する民間では供給されにくい公共施設や公共サービスの提供にあり、その建設や運用の費用には税金が使われている(税は公共サービスの財源である)ことを理解する。</li> </ul> <p>4 税の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDを視聴し、税のある暮らしとない暮らしとを比べ、税がなければどのような社会になるのかを考え、税の必要性を理解する。</li> <li>・納税者が納税の義務を果たさなかったらどうなるのかを考える。 →公共サービスを賄う財源が不足し、税のない社会と同じになることに気付き、納税の義務を果たすことの大切さを理解する。</li> <li>・税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分ち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」として理解する。</li> </ul> <p>5 税の仕組みや種類・分類</p> <p><del>・会社員の1日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。</del></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><del>【家】住民税(住むこと)、固定資産税</del> → <del>【会社】法人税、所得税(給料)</del> → <del>【外出】自動車税、ガソリン税(揮発油税)、消費税(買い物)、相続税(葬儀場)</del> → <del>【帰宅】酒税、たばこ税</del> など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を提示する。</li> <li>・公共サービスは、私たちの暮らしに欠かせないものであること、その提供には費用がかかり、税はその費用を賄うものであることを理解させる。</li> </ul> <p>☆国税庁DVD(「ご案内しますアナザーワールドへ」(15分57秒))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書し、認識の共有化を図る。</li> </ul> <p>☆イラストなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活と税が密接に関わっていることに気付かせる。</li> </ul> <p>☆国税庁HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材</p> <p><del>・e-TaxなどICTを使って確定申告や納税ができることに気付かせる。</del></p>



## 【4 班作成指導案】

<p>・税の基本的な仕組みや種類・分類などを理解する。</p> <p>【所得税】</p> <p><del>⇒会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引き、年末に1年間の税額の過不足を精算する(年末調整)。</del></p> <p><del>⇒事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。</del></p> <p>→収入に対して課税される。</p> <p>【消費税】</p> <p>→生徒は、物を買う都度消費税を支払っている。<del>が、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。</del></p> <p>・消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように一致する税は直接税に区分されることを理解する。</p> <p>・これまでに学習した税の種類や分類（直接税と間接税、国税と地方税）を整理する。</p> <p>・所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度（自発的に納税義務を履行する民主的な税制度）であることを理解する。</p> <p>・税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。</p> <p>→等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をするという考え方（消費税など）</p> <p>→負担能力の大きい人はより大きな負担をするという考え方（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。</p> <p>6 選挙と税</p> <p><del>・過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考える。</del></p> <p><del>⇒選挙の争点の多くは、税の使いみち（どのような政策を行うか）や税の集め方（その財源をどのように確保するか）に関わる問題であることに気付く。</del></p> <p>・税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。</p> <p>・主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切</p>	<p>・生徒も消費税を負担している税の負担者であることに気付かせる。</p>  <p>・「公共サービスの費用は、広く公平に分かち合う必要がある」と学習したことを再確認する。</p> <p>・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることに気付かせる。</p> <p>・総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料（指導上の政治的中立の確保等に関する留意点）の記載に留意する。</p> <p>☆新聞記事</p> <p>・選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・</p>
---	---

#### 【4班作成指導案】

	<p>さを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。</li></ul>	<p>減税などのヒントを出しながら考えさせる。</p>
まとめ	<p>7 本時のまとめとして、「税の意義や役割について考えたこと」を<del>ワ</del>→<del>タシ</del>→<del>ト</del>ノートに自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の言葉でまとめさせる。</li></ul>



## 【4班作成指導案】

租税教育 ワークシート

3年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

◇税が使われている施設は何だろう？また、その共通点を考えよう！

(施設)

--

(共通点)

--

◇国民が納税しなかったら、どうなってしまうだろう？

--

◇税を分類しよう！

	直接税	間接税
国税		
地方税		

【7 班作成指導案】

【中学校】 事例1 「政府の働きを支える税の役割とその仕組み」

ポイント➤ 税の意義や役割、基本的な税の仕組みを学ぶことに重点を置いた授業例

○実施学年、教科など

- ・ 第3 学年> 社会科> 公民的分野> (2) 私たちと経済> イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・ 公共サービスの財源を賄う税の意義・役割や基本的な仕組みを理解する。
- ・ 政府の経済活動（財政）に対する関心を高め、社会資本の整備、社会保障の充実、環境の保全など市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して政府が果たしている役割や、日本の財政の課題を理解する。

○評価規準

- ・ 税の意義や役割、基本的な仕組みを理解している。（知識・理解）
- ・ 市場の働きに委ねることが難しい諸問題を具体的に考えることができている。（思考・判断・表現）

○指導計画（5 時間・各 1 時間）

第1時 政府の仕事と租税<本時>

- 第2時 財政の働き
- 第3時 社会保障と国民の福祉
- 第4時 公害の防止と環境保全
- 第5時 日本経済の課題

○本時の学習（1 / 5 時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<p>1 消費税を含む数式の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○○を _____ 円(税抜き)と△△を _____ 円(税抜き)を買いました。実際に払うのはいくらでしょう。</li> <li>・ 税抜き価格、税込み価格の値段のちがいから、消費税という存在を意識させる。</li> <li>・ 税とは何か、税の種類は消費税だけかなどの問題を提起する。</li> </ul> <p>2 <del>+</del> 「税の意義や役割について、自分の言葉でまとめてみよう。」</p> <p><del>2 身近な税の使いみち(学校教育費)</del></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <del>公立学校に通う生徒一人当たりの年間教育費(国と地方公共団体の負担額)を予想する。</del></li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>小学生</p>  <p>約 894, 000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中学生</p>  <p>約 1, 022, 000 円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>高校生(全日制)</p>  <p>約 1, 006, 000 円</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">(平成 27 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <del>月謝に置き換えると、毎月約 8 万 5 千円が必要となることを知る。</del></li> <li>・ <del>教育費にかかる国や地方公共団体の歳出金額を調べる。</del></li> <li>・ <del>国や地方公共団体が教育費を負担(支出)している根拠を調べる(憲法第 26 条第 2 項「義務教育は、これを無償とする」)。</del></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題を提示する。</li> <li>☆ 国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材</li> <li>・ <del>歳出金額をイメージさせるために、100 万円の束が 1 cm、1 億円が 1 m、1 兆円が 10 km などと考えさせる。</del></li> <li>・ <del>教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。</del></li> </ul> <p>左の図は使用しません。</p>

展開

4-3 税の役割と必要性

- 税金が使われている施設を挙げ、それらの共通点を考える。  
(学校、消防署、図書館、道路、公民館、博物館、プール etc.)  
→「街のみんなが利用する」、(「営利目的ではない」、←入館料等がかかる場合もあるため)「街に必ず必要」など
- 政府の役割は、利潤を追求する民間企業では供給されにくい公共施設や公共サービスの提供にあり、その建設や運用の費用には税金が使われている(税は公共サービスの財源である)ことを理解する。  
公平性にも触れる。

4-4 税の必要性

- DVD を視聴し、税のある暮らしとない暮らしとを比べ、税がなければどのような社会になるのかを考え、税の必要性を理解する。
- 納税者が納税の義務を果たさなかったらどうなるのかを考える。  
→公共サービスを賄う財源が不足し、税のない社会と同じになることに気付き、納税の義務を果たすことの大切さを理解する。払わない人も平等にサービスを受けていいのか考えさせる。
- 税は、公共サービスの費用を賄うものであり、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための費用は、みんなが広く公平に分ち合うことが必要である。このため、税は「社会の会費のようなもの」とであると言えることを理解する。

3-5 税の仕組みや種類・分類

- 野原一家(クレヨンしんちゃん)会社員の一日の生活の例から、どのような税が関わっているのか、どのような税の種類があるのかを知る。

【家】住民税(住むこと)、固定資産税 → 【会社】法人税、所得税(給料) → 【外出】自動車税、ガソリン税(揮発油税)、消費税(買い物)、相続税(葬儀場) → 【帰宅】酒税、たばこ税 など

- 税の基本的な仕組みや種類・分類などを理解する。  
【所得税】  
→会社員の所得税は、会社が毎月給料から差し引くき、年末に1年間の税額の過不足を精算する(年末調整)。  
→事業者などの所得税は、1年間の所得や税額を自分で計算し、確定申告の時期に申告・納税する。  
【消費税】  
→生徒は、物を買う都度消費税を支払っているが、税務署への申告・納税は、お店が確定申告の時期などに行っている。
- 消費税のように負担者と納税者が異なる税は間接税、所得税のように一致する税は直接税に区分されることを理解する。
- これまでに学習した税の種類や分類(直接税と間接税、国税と地方税)を整理する。
- 所得税など国税は、自己の所得等を最も正確に把握している国民が自ら税額を適正に計算し申告と納付を行う申告納税制度(自発的に納税義務を履行する民主的な税制度)であることを理解する。  
下線部の説明時に、国民を信頼して任せているので、正確に自ら申告し、納税することが大事だと理解する。

- 公共サービスは、私たちの暮らしに欠かせないものであること、その提供には費用がかかり、税はその費用を賄うものであることを理解させる。
- 例として、教科書裏表紙の記述「国民の税金で無償で支給」に気付かせる。国立、県立、市立など

☆国税庁 DVD (「ご案内します アナザーワールドへ」(15分57秒))

- 「公平」、「社会の会費のようなもの」などのキーワードは板書し、認識の共有化を図る。

☆イラストなど

- 身近な生活と税が密接に関わっていることに気付かせる。

☆国税庁 HP「税の学習コーナー(発展編)」、副教材

→e-Tax など ICT を使って確定申告や納税ができることに気付かせる。

- 生徒も消費税を負担している税の負担者であることに気付かせる。



【7 班作成指導案】

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税の公平とは、税を負担能力に応じて分かち合うという意味であり、公平には2つの大きな考え方があることを理解する。</li> <li style="padding-left: 20px;">→<del>全員が等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい税を納める負担をする</del>という考え方（消費税など）</li> <li>→<del>経済力が大きな人ほど、その大きさに見合った税を納める負担能力の大きい人はより大きな負担をする</del>という考え方（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率）がある）。</li>   <li><del>6 選挙と税</del></li> <li><del>・過去の選挙の争点を調べ、税との関わりを考える。</del></li> <li style="padding-left: 20px;"><del>⇒選挙の争点の多くは、税の使いみち（どのような政策を行うか）や税の集め方（その財源をどのように確保するか）に関わる問題であることに気付く。</del></li> <li><del>・税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解する。</del></li> <li><del>・主権者である国民が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解する。</del></li> <li><del>・自らの代表が国の支出の在り方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解する。</del></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><del>・「公共サービスの費用は、広く公平に分かち合う必要がある」と学習したことを再確認する。</del></li> <li>・公共サービスの財源を賄えるよう、また、負担が公平になるよう多くの税の種類が組み合わせられていることに気付かせる。（もし、税が一種類しかなかったらどうなるのか。）</li>   <li><del>・総務省・文部科学省作成副教材「私たちが拓く日本の未来」活用のための指導資料（指導上の政治的中立の確保等に関する留意点）の記載に留意する。</del></li> <li>☆新聞記事</li> <li><del>・選挙に関する新聞記事を活用し、地方創生、教育・子育て、福祉、復興、増税・減税などのヒントを出しながら考えさせる。</del></li> </ul>
<p>ま と め</p>	<p>5.7 本時のまとめとして、「税の意義や役割について考えたこと」を自分のノートにワークシートに自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の言葉でまとめさせる。</li> </ul>

【中学校】事例2「私たちの生活と税の役割を考える」

ポイント▶ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・身近な例を通して生活と税の関わりに気づき、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解する。
- ・社会の一員(税の負担者)として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動(財政)に関心を持ち、政府の役割や財政の在り方について考え、意見を持つことの大切さを理解する。

○指導計画(5時間・各1時間)

第1時 私たちの生活と税の役割<本時>

- 第2時 私たちの生活と財政
- 第3時 国の支出と収入
- 第4時 社会保障と私たちの生活
- 第5時 社会資本の役割と環境への取組



○本時の学習(1/5時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の展開についての説明を聞く。</li> <li>・ワークシートの本文を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を朗読する。</li> </ul>
展開	<p>1 ワークシート(課題1)</p> <p>①各自が(課題1)の「予想」欄を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入後、複数の生徒が予想を発表し、意見交換を行う。</li> </ul> <p>②米国テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方を知る。</li> <li>・「正解」欄に「Aさんは、消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」と書く。</li> <li>・正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒が感想を発表する。</li> </ul> <p>③日本とサウスフルトン市との違いを考え、班ごとに意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では、消防活動の費用は無料である。</li> <li>・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。</li> </ul> <p>→国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視し、記入の進まない者に助言する。</li> <li>・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。</li> </ul>
導入	<p>2 身近な生活と税との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の一日の生活の例を通して、自分たちの生活と税の関わりに気づき、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであることを理解する。</li> </ul> <p>(起床)洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒(登校)学校に通うための道路や信号⇒(授業)学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒(部活動)陸上競技場や野球場などの施設作り⇒(だんらん・夕食)安全な食品を作る農業・漁業の支援⇒(就寝)夜の安心、日々の安全を守る警察や消防</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意見を受け説明を加える(公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益=負担ではないこと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることに気付かせる。)</li> <li>・副教材やイラストなどを活用する。</li> <li>・国税庁HP「税の学習コーナー」(発展編)を活用し、国民一人当たりの警察・消防費(約41,331円・平成28年度)など具体的な金額を提示する。</li> <li>・学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。</li> <li>・税がなければどのような社会になるかを考えさせる。</li> </ul>
3の発問後に理解させる	<p>3 ワークシート(課題2) <b>メイン発問↓</b></p> <p>発問:「もし、国民が税金を納めなかったら(納税の義務を果たさなかったら)、どのようなことが起こるでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(課題2)について考え記入する。</li> </ul>	

### 【3班作成指導案】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。</li> <li>・記入後、班内で各自の意見を発表する。</li> <li>・納税の義務を果たすことの大切さを理解する。</li> </ul> <p><del>4 ワークシート（課題3）</del></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の出動回数の増加に対して有料化すべきとの意見があることについて考え、賛成か反対か、理由も併せて記入する。</li> <li>・班ごとに賛成派、反対派に分けて意見を発表し、意見や質問があれば発表し、意見を交流する。</li> <li>・政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に住民や国民の意思（選択）により決定されることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることに気付かせる。</li> <li>・税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さに気付かせる。</li> </ul>
まとめ	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共サービスの費用を賄う税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを学んだことを理解する。</li> </ul>	

#### ○評価規準

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができている。（関心・意欲・態度）
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができている。（思考・判断・表現）
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。（知識・理解）

#### ○教材・資料（ワークシート ※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。）

学習日： 年 月 日

「私たちの暮らしと政府の経済活動」

（ ）年（ ）組（ ）番 名前

~~2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。~~

Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうまま、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。

隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。

結局、Aさんの家は全焼しました。 **なぜAさん宅に行かずに、Bさん宅に行ったのか。**

↑口頭で説明

（課題1） ~~消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。~~

**なぜAさん宅に行かなかったのか。**

予想
正解は・・・
学校では・・・
警察では・・・
街・地域では・・・



## 私たちの暮らしと政府の経済活動

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

~~2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。~~

Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。

ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないまま、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。

~~隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。~~

~~現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。~~

~~結局、Aさんの家は全焼しました。~~

(課題1) ~~消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。~~ なぜAさん宅に行かなかったのか。

予想

正解は・・・



### 【3班作成指導案】

(課題2)「もし・・・」

学校では・・・

警察では・・・

街・地域では・・・

(課題3)「救急車の有料化について・・・」

【中学校】事例2「私たちの生活と税の役割を考える」

ポイント▶ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・身近な例を通して生活と税の関わりに気づき、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解する。
- ・社会の一員(税の負担者)として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動(財政)に関心を持ち、政府の役割や財政の在り方について考え、意見を持つことの大切さを理解する。

○指導計画(5時間・各1時間)

第1時 私たちの生活と税の役割<本時>

第2時 私たちの生活と財政

第3時 国の支出と収入

第4時 社会保障と私たちの生活

第5時 社会資本の役割と環境への取組



○本時の目標

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができる。(学びに向かう力、人間性等)
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。(知識・技能)

○本時の学習(1/5時間)

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の展開についての説明を聞く。</li> <li>・ワークシートの本文を読む。</li> <li>・絵を見て税金が使われているものを丸で囲み、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を朗読する。</li> <li>・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。</li> <li>・資料を用いることで生徒が考える手立てになるようにする。</li> </ul>
展開	<p>② 1 身近な生活と税との関わり</p> <p>・生徒の一日の生活の例を通して、絵から、自分たちの生活と税の関わりに気づき、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであることを理解する。</p> <p>(起床)洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒(登校)学校に通うための道路や信号⇒(授業)学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒(部活動)陸上競技場や野球場などの施設作り⇒(だんらん・夕食)安全な食品を作る農業・漁業の支援⇒(就寝)夜の安心、日々の安全を守る警察や消防</p> <p>± 2 ワークシート(課題1)</p> <p>①各自が(課題1)の「予想測」欄を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入後、複数の生徒が予想測を発表し、意見交換を行う。</li> </ul> <p>②米国テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方があることを知る。</li> <li>・「正解」欄に「Aさんは、消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」と書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視指導し、記入の進まない者に、絵の読み取りの着眼点を助言する。</li> <li>・水道民営化など、最新の社会情勢について触れ、より身近に感じるようにする。</li> <li>・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。</li> <li>・生徒の意見を受け説明を加える(公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益=負担ではない)</li> </ul>

【5 班作成指導案】

	<p>・正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒が感想を発表する。</p> <p>③日本とサウスフルトン市との違いを考え、班ごとに意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では、消防活動の費用は無料である。</li> <li>・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。</li> </ul> <p>→国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。</p> <p>3 ワークシート（課題2）</p> <p>発問：「もし、国民が税金を納めなかったら（納税の義務を果たさなかったら）、どのようなことが起こるでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（課題2）について考え記入する。・「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。</li> <li>・記入後、班内で各自の意見を発表する。</li> <li>・再度、丸を付けた絵を確認し、納税の義務を果たさなければ、それらのサービスが成立しないことから、</li> <li>→納税の義務を果たすことの大切さを理解する。</li> </ul> <p>4 ワークシート（課題3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の出動回数の増加に対して有料化すべきとの意見があることについて考え、賛成か反対か、理由も併せて記入する。</li> <li>・班ごとに賛成派、反対派に分けて意見を発表し、意見や質問があれば発表し、意見を交流する。</li> </ul>	<p>こと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることに気付かせるくよう指導する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副教材やイラストなどを活用する。</li> <li>・国税庁 HP「税の学習コーナー」（発展編）を活用し、国民一人当たりの警察・消防費（約 41,331 円・平成 28 年度）など具体的な金額を提示する。</li> <li>・学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。</li> <li>・税がなければどのような社会になるかを考えさせる。・政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることに気付かせるくよう声かけをする。</li> <li>・税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さに気付かせるくよう促す。</li> </ul>
<p>ま と め</p>	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共サービスの費用を賄う税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを学んだことを理解する。</li> <li>・政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に住民や国民の意思（選択）により決定されることを理解する。の提示を受け、次項の学びにつなげる。</li> </ul>	

○評価規準・方法

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができる。（関心・意欲・態度）  
（学びに向かう力、人間性等・発言）
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができる。（思考力・判断力・表現力等・ワークシート）
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。（知識・理解技能・ワークシート）

○教材・資料（ワークシート ※Word 版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。）

## 私たちの暮らしと政府の経済活動

3年( )組( )番 名前( )

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。

Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。

ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。

隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。

現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。

結局、Aさんの家は全焼しました。

(課題1) 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

予想測

正解は・・・

(課題2) 救急車の有料化について ~~賛成か反対か~~自分の立場を示し、理由とともに述べよ。

## 【5班作成指導案】

—(課題2)「もし……」—

学校では……

警察では……

街・地域では……

【6 班作成指導案】

【中学校】事例2 「私たちの生活と税の役割を考える」

ポイント➤ 外国の事例を参考に、消防など公共サービスの費用を賄う税の役割を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・身近な例を通して生活と税の関わりに気づき、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解する。
- ・社会の一員（税の負担者）として、税の使いみちなど国・地方公共団体の経済活動（財政）に関心を持ち、政府の役割や財政の在り方について考え、意見を持つことの大切さを理解する。

○指導計画（5時間・各1時間）

**第1時 私たちの生活と税の役割<本時>**

- 第2時 私たちの生活と財政
- 第3時 国の支出と収入
- 第4時 社会保障と私たちの生活
- 第5時 社会資本の役割と環境への取組



○本時の学習（1 / 5時間）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の展開についての説明を聞く。</li> <li>・ワークシートの本文を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を朗読する。</li> </ul>
展 開	<p><b>1 ワークシート（課題1）</b> 8つの項目から自分が受けたサービスから1から順に書いてもらう。人によって受けたサービスが異なることを知るとともに、8つの項目すべてが国民の税金によって成り立っていることを知る。</p> <p><b>2 ワークシート（課題2）</b></p> <p>①各自が（課題2）の「予想」欄を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入後、複数の生徒が予想を発表し、意見交換を行う。</li> </ul> <p>②米国テネシー州サウスフルトン市の消防の仕組みの説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要があること、市長の「消防活動は市が提供するサービスでサービスを受けるか受けないかは住民の自由である」という考え方を知る。</li> <li>・「正解」欄に「Aさんは、消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Bさんは払っていたから。」と書く。</li> <li>・正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒が感想を発表する。</li> </ul> <p>③日本とサウスフルトン市との違いを考え、班ごとに意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では、消防活動の費用は無料である。</li> <li>・日本では、消防活動の費用は税で賄われており、消防活動は納税の有無にかかわらず行われる。</li> </ul> <p>→国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民みんなに広く提供されており、その費用は税という形で社会の構成員である国民が広く分かち合っていて分担していること、憲法には納税の義務があることを理解する。</p> <p><b>3 ワークシート（課題3）</b></p> <p>発問：「もし、国民が税金を納めなかったら（納税の義務を果たさなかったら）、どのようなことが起こるでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（課題3）について考え記入する。</li> <li>・「街・地域」では、どのような公共施設や公共サービスがあるのかについても考える。</li> <li>・記入後、班内で各自の意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視し、記入の進まない者に助言する。</li> <li>・導入なので自由な発言を引き出し、雰囲気盛り上げる。</li> <li>・生徒の意見を受け説明を加える（公共サービスの負担の在り方や納税の義務などに関わる問題であること、日本は受益＝負担ではないこと、生徒も社会の一員として消費税を負担していることに気付かせる。）。</li> <li>・副教材やイラストなどを活用する。</li> <li>・国税庁HP「税の学習コーナー」（発展編）を活用し、国民一人当たりの警察・消防費（約41,331円・平成28年度）など具体的な金額を提示する。</li> </ul>

【6班作成指導案】

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や警察がどうなるか、具体例を提示して思考の足場を組ませる。</li> <li>・税がなければどのような社会になるかを考えさせる。</li> </ul>
4	<p>身近な生活と税との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の一日の生活の例を通して、自分たちの生活と税の関わりに関心、税は自分たちの暮らしを支え、生活に欠かせないものであること、<b>また納税の義務を果たすことの大切さを理解する。</b></li> <li>（起床）洗面や調理に使う水・上下水道の整備⇒（登校）学校に通うための道路や信号⇒（授業）学校など教育施設の建設、机・椅子・教科書⇒（部活動）陸上競技場や野球場などの施設作り⇒（だんらん・夕食）安全な食品を作る農業・漁業の支援⇒（就寝）夜の安心、日々の安全を守る警察や消防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は市場の働きに委ねることが難しいサービスを提供していることに気付かせる。</li> <li>・税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、生徒自身が税の負担者として公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さに気付かせる。</li> </ul>
まとめ	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共サービスの費用を賄う税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを学んだことを理解する。</li> </ul>	

○評価規準

- ・議論に積極的に参加し意見を述べ、異なる意見の存在を認めることができている。（関心・意欲・態度）
- ・公共サービスの負担の在り方について考えることができている。（思考・判断・表現）
- ・税の役割、納税の義務を果たすことの大切さを理解している。（知識・理解）

○教材・資料（ワークシート ※別ファイルで添付しています。）



## 私たちの暮らしと政府の経済活動

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

(課題1) あなたが受けたサービスを受けたい順番に1から数字を( )に書いてください。

- ・( ) 町の治安を守るため、警察にパトロールをしてもらう。
- ・( ) 熱中症で倒れている人がいたので、救急車を呼ぶ。
- ・( ) 義務教育を保障する。
- ・( ) 公園内にある遊具の点検や美化活動をしてもらう。
- ・( ) 風邪をひいたので、医者に診てもらう。
- ・( ) 生ごみの回収をしてもらう。
- ・( ) 災害による救助活動を行ってもらう。
- ・( ) 水道ガス・電気を供給してもらう。

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。

Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。

ところが、火事が起こっているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。

隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。

現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。

結局、Aさんの家は全焼しました。

(課題2) 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

<p>予想</p>	<p>正解は・・・</p>
-----------	---------------

## 【6班作成指導案】

(課題3) 「もし国民が納税の義務を果たさなかったら、どのようなことが起こるでしょうか。」

学校では・・・

警察では・・・

街・地域では・・・

## 【2班作成指導案】

### 【中学校】事例3「公平な社会って何だ？」

ポイント> 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

#### ○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

#### ○単元の目標

- ・「国民の願いを実現するため、納税者となって税金を納める」というシミュレーションを通して、公共サービスの財源を賄う税の役割、税の公平の考え方、日本の財政状況を理解し、総合的に考える。
- ・それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考え、判断する。

#### ○指導計画（2時間・各1時間）

第1時 「納税者になってみよう」<本時1>

第2時 **財政の現状と課題 公平な社会とは** <本時2>

#### ○本時1の学習（1/2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体をワークシート(前提)①のA~G 7人ずつの5つのグループに分け、各グループでメンバーそれぞれがワークシート(前提)①のA~Gのいずれの立場をとるか立場を決める。</li> <li>・ワークシート(前提)の各人の立場、収入と願い、全体に必要な予算総額を理解する(①~④)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々には様々な願いがあることを知る。</li> </ul>
展開	<p>1 ワークシート(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前提)④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考え、その金額と理由を②、③に記入する。</li> <li>・各立場の人びとで集まり、確認が決めた納める税金の額とその理由について話し合う。</li> <li>・グループ内で、各人が決めた納める税金の額を発表する。</li> </ul> <p>※180万円から20万円を納める生徒や2,000万円から1円も納めない生徒もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合う。</li> <li>・グループ内で話し合った結果を発表する。</li> <li>・<del>グループ間においても意見交換をする。</del></li> <li>・<del>※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない」、「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。</del></li> <li>・各人が納める税金(②)を収入(①)で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。</li> <li>・グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。</li> <li>・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平(収入(所得)が多いほど税率が高い累進税率の場合)となっていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得させる。</li> <li>・グループを超えて交流することで、自身の立場の多様な考え方を理解させる。</li> <li>・各立場で交流した内容をグループ内でも共有する。</li> <li>・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚させる。</li> <li>・他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても再考させる。</li> </ul>

【2班作成指導案】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート（参考）の所得税の税率と④の税率とを比較する。</li> <li>2 ワークシート（課題2）</li> <li>・各人の収入には、（参考：所得税の税率）のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。</li> <li>・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。</li> <li>・（課題1）②の納める税金と（課題2）②の納める税金とを比較する。</li> <li>・<del>次回の授業では公平な社会について考えることを告知し、まとめる。</del></li> <li><del>3 公平な社会とは何かを考える。</del></li> <li><del>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。</del></li> <li><del>※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。</del></li> <li><del>※収入が多い人は損だと思うかもしれないが、「助け合いの心」だと思う。</del></li> <li><del>※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率は良いと思う。</del></li> <li><del>※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。</del></li> <li><del>※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。</del></li> <li><del>※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要なとされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。</del></li> <li><del>※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。</del></li> <li><del>※結構な税金を払わなければならないことに驚いた。</del></li> <li><del>※両方の公平を上手く組み合わせてバランスを取ることが大事だと思う。</del></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。</li> <li>・水平的公平→等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をする（消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み（比例税率）。平成30年4月現在）。</li> <li>・垂直的公平→負担能力の大きい人はより大きな負担をする（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。</li> <li>・社会全体の利益と個の在り方について総合的に考えさせる。</li> <li><del>・「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解を持たせる。</del></li> </ul>
---	--

○本時2の学習（2 / 2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をする。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 公平な社会とは何かを考える。</li> <li>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。</li> <li>※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解を持たせる。</li> </ul>

## 【2 班作成指導案】

める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う

※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率は良いと思う。

※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。

※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。

※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要とされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。

※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。

※結構な税金を払わなければならないことに驚いた。

※両方の公平を上手く組み合わせてバランスを取ることが大事だと思った。

2 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どうしたら良いでしょうか。」

- ・税収が不足する場合の対処方法について考え、グループで話し合う。
- ・意見を発表する（他者の意見を聞く。）。

※増税する、公債を発行する、一部の願いを諦めるなど、様々な意見。

3 財政に関する資料を調べる。

- ・日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）を知り、今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。

※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。

※税収が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。

※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。

※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。

※負担<福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。

※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。

※日本は問題を先送りしていて、きちんと向き合っていないと思った。

※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。

※税によるサービスが充実しているのはうれしいけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。

※みんなが税制について完璧に納得して、誰一人不満なく暮らせる社会が理想だけれど、それはとても難しいから、一人一人がどの程度の我慢をするかということを考えていかなければならないと思う。

※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うこ

・最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。

☆財務省 HP

・他者の意見を聞き、歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知った上で、今後の日本の在り方について改めて考えさせる。

・人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切

**【2班作成指導案】**

	とができるようになって良かった。	さを理解させる。
ま と め	3 まとめ、質問など	

## 【2班作成指導案】

### ○まとめ(実践を終えて)

- ・みんなとても熱心にグループ討議を重ね、積極的に発言が出された。中でも、「一部の人が裕福で、一部の人が見捨てられるような国は嫌だ。」「たくさん税金を払っても、それが社会のためになっているのなら頑張ろうと思う。」など、思いやりの心や相互扶助の精神が強く感じられたことが特に印象的であった。
- ・他者の立場や社会全体の利益に配慮し、「みんなの生活が良くなるように」という視点で物事を捉える姿勢には感心するものがあった。
- ・生徒間の議論を通じ、様々な価値観に触れることで、自分自身の考えについて見直すきっかけにもなったようにも感じられた。
- ・これからの社会を担う生徒たちに、今後も税を通して社会の在り方について考えるきっかけを与えることができればと思う。

### ○教材・資料 (ワークシート ※Word版を国税庁ホームページ「税の学習コーナー」に掲載しています。)

(前提)

① 各人の立場	②各人の収入 (所得)	② 各人の願い (例)	生活費	④③の政策に 必要な予算額
高齢者のAさん	250万円	医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障	100万円	※6,800万円
育児中のBさん	500万円	子育て支援(児童手当、育児環境整備) など＝少子化対策	250万円	1,600万円
フリーターのCさん	180万円	雇用創出、企業への補助金支給など ＝生活保障と経済効果	90万円	3,800万円
企業経営者のDさん	2,000万円	景気回復など＝景気の安定化	1000万円	7,200万円
災害に遭われたEさん	800万円	住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障	560万円	5,300万円
持病をもっているFさん	350万円	医療費負担の軽減など	245万円	(※に含まれる)
介護をしているGさん	1,000万円	介護休暇制度の充実など	700万円	(※に含まれる)
合計	5,080万円	—	2945万円	2億4,700万円

(課題1)

(前提) を参考にそれぞれが納める税金の額を考えよう。

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/ ①)
Aさん	250万円	万円		%
Bさん	500万円	万円		%
Cさん	180万円	万円		%
Dさん	2,000万円	万円		%
Eさん	800万円	万円		%
Fさん	350万円	万円		%
Gさん	1,000万円	万円		%
合計	5,080万円	万円	—	—



## 【2班作成指導案】

(課題2) 下記の資料を参考にしてA~Gが納める税金を考えよう。

※便宜上、収入＝課税所得（収入から差し引く経費なし）として計算

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	10%	152,500円
Bさん	20%	572,500円
Cさん	5%	90,000円
Dさん	40%	5,204,000円
Eさん	23%	1,204,000円
Fさん	20%	272,500円
Gさん	33%	1,764,000円
合計	=	9,259,500円

(参考：所得税の税率) ※平成30年分

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円超～330万円以下	10%
330万円超～695万円以下	20%
695万円超～900万円以下	23%
900万円超～1,800万円以下	33%
1,800万円超～4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

税額の計算例：課税される所得金額が400万円の場合

- $195 \text{万円} \times 5\% = 97,500 \text{円}$
- $(330 \text{万円} - 195 \text{万円}) \times 10\% = 135,000 \text{円}$
- $(400 \text{万円} - 330 \text{万円}) \times 20\% = 140,000 \text{円}$
- $97,500 \text{円} + 135,000 \text{円} + 140,000 \text{円} = 372,500 \text{円}$

【8班作成指導案】

【中学校】事例3「公平な社会って何だ？」

ポイント➤ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3学年>社会科>公民的分野>(2)私たちと経済>イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・「国民の願いを実現するため、納税者となって税金を納める」というシミュレーションを通して、公共サービスの財源を賄う税の役割、税の公平の考え方、日本の財政状況を理解し、総合的に考える。
- ・それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考え、判断する。

○指導計画（2時間・各1時間）

第1時 「納税者になってみよう」<本時1>

第2時 公平な社会について 財政の現状と課題 <本時2>

○本時1の学習（1/2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>クラス全体をワークシート（前提）①のA～G7グループに分け、各グループの立場を決める。</del></li> <li>・<del>ワークシート（前提）の各人の立場、収入と願い、全体に必要な予算総額を理解する（①～④）。</del></li> <li>・国の歳入の内訳を復習する。</li> <li>・税金が何に使われているのかを復習する。</li> <li>・公共サービスはみんなが平等に使うものであるということを理解させ、税金も平等に取るべきかどうか意識を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>人々には様々な願いがあることを知る。</del></li> </ul>
展開	<p>1 ワークシート（課題1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート（前提）の各人の立場、収入と現状を理解する（①～②）。</li> <li>・<del>（前提）④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考えるその金額と理由を②、③に記入する。</del></li> <li>・グループ内で、各人が考えた決めた納める税金の額を発表する。 ※180万円から20万円を納める生徒や、2,000万円から1円も納めない生徒もいる。</li> <li>・グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合う。</li> <li>・グループ内で意見を一つにまとめ、金額と理由を（課題1）の②、③に記入する。</li> <li>・グループ内で話し合った結果を発表する。</li> <li>・グループ間においても意見交換をする。 ※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない」、「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。</li> <li>・各人が納める税金（②）を収入（①）で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。</li> <li>・<del>グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。</del></li> <li>・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること 税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平（収入(所得)が多いほど税率が高い累進税率の場合）となっていることに触れるを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得させる。</li> <li>・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚させる。</li> <li>・他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても再考させる。</li> </ul>

【8 班作成指導案】

<p>展 開</p>	<p><del>・ワークシート（参考）の所得税の税率と④の税率とを比較する。</del>  <del>② ワークシート（課題 2）</del>  <del>・各人の収入には、（参考：所得税の税率）のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。</del>  <del>・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。</del>  <del>・（課題 1）②の納める税金と（課題 2）②の納める税金とを比較する。</del>  <del>③ 公平な社会とは何かを考える。</del>  <del>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。</del>  <del>※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。</del>  <del>※収入が多い人は損だと思ふかもしれないが、「助け合いの心」だと思ふ</del></p>	<p><del>・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。</del>  <del>・水平的公平→等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい負担をする（消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み（比例税率）。平成 30 年 4 月現在）。</del></p>
	<p><del>※全員が同じ税金を納めるのは金額だけ見れば平等かもしれないけど、収入に応じた負担は平等ではないから、累進税率は良いと思う。</del>  <del>※累進税率は賛成だけど、税率のバランスが悪いと思う。もっと高所得者の税率を高くして、低所得者の税率を下げた方がよい。</del>  <del>※垂直的公平だと貧富の差がなくなるけど、やり過ぎると真面目に働く人がいなくなるので難しいと思った。</del>  <del>※どちらもそれぞれに公平だと思う。それぞれに必要とされる場面が違うので、その場に応じた公平の適用が必要だと思う。</del>  <del>※どちらの公平が正しいとか、どちらにすべきというものではないと思う。人によって考え方は違うので、公平というのは難しいなと思った。</del>  <del>※結構な税金を払わなければならないことに驚いた。</del>  <del>※両方の公平を上手く組み合わせてバランスを取ることが大事だと思つた。</del></p>	<p><del>・垂直的公平→負担能力の大きい人はより大きな負担をする（所得税や相続税などは、所得など課税対象額が多くなるほど税率が高くなる仕組み（累進税率））。</del>  <del>・社会全体の利益と個の在り方について総合的に考えさせる。</del>  <del>・「公平な社会とは何か。」について自分なりの見解を持たせる。</del></p>

○本時2の学習（2 / 2 時間）

	<p>学習活動・学習内容、生徒の反応(※)</p>	<p>指導上の留意点 教材・資料(☆)</p>
<p>導 入</p>	<p>・前時の復習をする。</p>	
<p>展 開</p>	<p>1 ワークシート（課題 2）  <del>・各人の収入には、（参考：所得税の税率）のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。</del>  <del>・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。</del>  <del>・（課題 1）②の納める税金と（課題 2）②の納める税金とを比較する。</del></p> <p>・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平（収入(所得)が多いほど税率が高い累進税率の場合）となっていることを理解する。</p>	<p><del>・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。</del>  <del>・水平的公平→等しい負担能力のある人（経済力が同じ人）は等しい</del></p>

【8 班作成指導案】

	<p>2 公平な社会とは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。</li> </ul> <p>※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。</p> <p>※収入が多い人は損だと思ふかもしれないが、「助け合いの心」だと思ふ</p> <p>1 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税金が足りません。さて、どうしたら良いでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金が不足する場合の対処方法について考え、グループで話し合う。</li> <li>・意見を発表する（他者の意見を聞く。）。</li> </ul> <p>※増税する、公債を発行する、一部の願いを諦めるなど、様々な意見。</p> <p>2 財政に関する資料を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）を知り、今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。</li> </ul> <p>※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。</p> <p>※税金が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。</p> <p>※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。</p> <p>※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。</p> <p>※負担&lt;福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。</p> <p>※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。</p> <p>※日本は問題を先送りしていて、きちんと向き合っていないと思った。</p> <p>※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。</p> <p>※税によるサービスが充実しているのはうれしいけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。</p> <p>※みんなが税制について完璧に納得して、誰一人不満なく暮らせる社会が理想だけれど、それはとても難しいから、一人一人がどの程度の我慢をするかということを考えていかなければならないと思う。</p> <p>※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うことができるようになって良かった。</p>	<p>負担をする（消費税や個人住民税は、税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み（比例税率）。平成30年4月現在）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。</li> </ul> <p>☆財務省HP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を聞き、歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知った上で、今後の日本の在り方について改めて考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解させる。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平な社会をめぐる日本の問題点について意識づける。</li> <li>・まとめ、質問など</li> </ul>	

## 納税者になってみよう

(前提)

①各人の立場	②各人の収入 (所得)	<del>③各人の願い(例)</del>	④③の施策に必要な 予算額
高齢者のAさん	250万円	<del>医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障</del>	<del>※6,800万円</del>
育児中のBさん	500万円	<del>子育て支援(児童手当、育児環境 整備)など＝少子化対策</del>	1,600万円
フリーターのCさん	180万円	<del>雇用創出、企業への補助金支給 など＝生活保障と経済効果</del>	3,800万円
企業経営者のDさん	2,000万円	<del>景気回復など＝景気の安定化</del>	7,200万円
災害に遭われたEさん	800万円	<del>住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障</del>	5,300万円
持病をもっているFさん	350万円	医療費負担の軽減など	<del>-(※に含まれる)-</del>
介護をしているGさん	1,000万円	介護休暇制度の充実など	<del>-(※に含まれる)-</del>
合計	5,080万円	＝	2億4,700万円

(課題1)

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/ ①)
Aさん	250万円	万円		%
Bさん	500万円	万円		%
Cさん	180万円	万円		%
Dさん	2,000万円	万円		%
Eさん	800万円	万円		%
Fさん	350万円	万円		%
Gさん	1,000万円	万円		%
合計	5,080万円	万円	—	—

## 【8班作成指導案】

(課題2)

※便宜上、収入＝課税所得（収入から差し引く経費なし）として計算

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	%	円
Bさん	%	円
Cさん	%	円
Dさん	%	円
Eさん	%	円
Fさん	%	円
Gさん	%	円
合計	—	円

(参考：所得税の税率)

※平成30年分

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円超～330万円以下	10%
330万円超～695万円以下	20%
695万円超～900万円以下	23%
900万円超～1,800万円以下	33%
1,800万円超～4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

税額の計算例：課税される所得金額が400万円の場合

- $195 \text{万円} \times 5\% = 97,500 \text{円}$
- $(330 \text{万円} - 195 \text{万円}) \times 10\% = 135,000 \text{円}$
- $(400 \text{万円} - 330 \text{万円}) \times 20\% = 140,000 \text{円}$
- $97,500 \text{円} + 135,000 \text{円} + 140,000 \text{円} = 372,500 \text{円}$

税額は、課税所得金額ごとの税率を掛けて計算します。

【9 班作成指導案】

【中学校】事例3「公平な社会って何だ？」

ポイント▶ 税金を納めるシミュレーションを通して、グループワークにより公平な社会を考える授業例

○実施学年、教科など

- ・第3 学年> 社会科> 公民的分野> (2) 私たちと経済> イ国民の生活と政府の役割

○単元の目標

- ・「国民の願いを実現するため、納税者となって税金を納める」というシミュレーションを通して、公共サービスの財源を賄う税の役割、税の公平の考え方、日本の財政状況を理解し、総合的に考える。
- ・それぞれの立場に配慮し、公平な社会の在り方について多面的・多角的に考え、判断する。

○指導計画（2 時間・各 1 時間）

第1時 「納税者になってみよう」<本時1>

第2時 財政の現状と課題 <本時2>

○本時1の学習（1 / 2 時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>クラス全体をワークシート(前提)①のA~G 7グループに分け、各グループの立場を決める。</del></li> <li>・クラス全体を 7 人グループに分け、各グループごとにワークシート(前提)①の A~G の配役を決める。</li> <li>・ワークシート(前提)の各人の立場、収入と願い、全体に必要な予算総額を理解する(①~④)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々には様々な願いがあることを知る。</li> </ul>
展 開	<p>1 ワークシート(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前提)④の予算総額を念頭に置き、各人が収入からどのくらいの税金を納めることができるかを考え、その金額と理由を②、③に記入する。</li> <li>・グループ内で、各人が決めた納める税金の額を発表する。</li> </ul> <p>※180 万円から 20 万円を納める生徒や 2,000 万円から 1 円も納めない生徒もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で、各人が発表した税金の額及び理由について話し合う。</li> <li>・<del>グループ内で話し合った結果を発表する。</del></li> <li>・<del>グループ間においても意見交換をする。</del></li> </ul> <p>※それぞれの税金の額を比べながら、「私より収入が多いのに税金が少ない。」「収入が多いのだから、もう少し納めてほしい。」など、生徒たちは様々な反応を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各人が納める税金(②)を収入(①)で割り、それぞれの税率を計算し、④に記入する。</li> <li>・グループ内で、各人が計算した④の税率を比較する。</li> <li>・税率が同じ場合は、消費税に代表される水平的な公平となっていること</li> <li>・税率が異なる場合は、所得税に代表される垂直的な公平(収入(所得)が多いほど税率が高い累進税率の場合)となっていることを理解する。</li> <li>・ワークシート(参考)の所得税の税率と④の税率とを比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の税負担を具体的に考えることにより、納税の実感を得させる。</li> <li>・言葉で伝えることで自身の価値判断の根拠を自覚させる。</li> <li>・他者の意見を聞くことで、異なる視点から物事を見つめ直し、自身の価値判断の根拠についても再考させる。</li> <li>・税の公平には、水平的公平と垂直的公平の考え方があることを示す。</li> <li>・水平的公平→等しい負担能力のある人(経済力が同じ人)は等しい負担をする(消費税や個人住民税は、</li> </ul>



【9班作成指導案】

<p>2 ワークシート（課題2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の収入には、（参考：所得税の税率）のどの税率が適用されるのかを確認し、①に記入する。</li> <li>・「税額の計算例」を参考に、納める税金を計算し、②に記入する。</li> <li>・（課題1）②の納める税金と（課題2）②の納める税金とを比較する。</li> </ul> <p>3 公平な社会とは何かを考える。</p> <p><del>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知り、改めて各人の税負担や公平な社会の在り方について話し合う。</del></p> <p>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知ったうえで、（課題1）②の治める税金と（課題2）②の納める税金を比較し自身が考えたことをまとめ、グループ内で話し合う。</p> <p>※税率は同じにした方が平等だと思う。その場合でも収入が多ければ納める税金が多くなるのに、税率まで高くするのはおかしいと思う。</p> <p>※収入が多い人は損だと思うかもしれないが、「助け合いの心」だと思う。</p>	<p>税率は一定だが、課税対象額が多くなるほど税額が多くなる仕組み（比例税率）。平成30年4月現在）。</p> <p>・2つの公平の考え方や所得税の税率を知る前と、知った後の自身の考えの変化について十分に認識させたうえで話し合いを行うことにより、各自自身の立場を明確にもったうえで話し合いが行えるようにする。</p>
--	--

○本時2の学習（2／2時間）

	学習活動・学習内容、生徒の反応(※)	指導上の留意点 教材・資料(☆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をする。</li> </ul>	
展開	<p>1 「みんなで考えて、税金を納めてくれましたが、人々の願いを全て実現するには税収が足りません。さて、どうしたら良いでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税収が不足する場合の対処方法について考え、<b>前回のグループで前回同様のA～Gの立場から</b>話し合う。</li> <li>・意見を発表する（他者の意見を聞く。）。</li> </ul> <p>※増税する、公債を発行する、一部の願いを諦めるなど、様々な意見。</p> <p>2 財政に関する資料を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の財政の現状（深刻な財政赤字の状況や諸外国との税負担の違いなど）<del>を知り</del>についての資料を教師が提示し、各自それを基に調べてまとめ、今後の日本の在り方について各自で考える。<del>今後の日本の在り方について考え、意見を発表する。</del></li> </ul> <p>※必要なお金と集まるお金にこれほど差があるとは思わなかった。</p> <p>※税収が全体の半分くらいで、公債に頼っているのはよくないと思った。</p> <p>※少子高齢化に伴い、問題が生じていることは知っていたが、これほど影響が出ているとは知らなかった。</p> <p>※諸外国に比べ税負担は少ないので、もう少し増税してもいいのではないかと思う。</p> <p>※負担&lt;福祉はうれしいけれど、公債によって負担を先送りするくらいなら国のサービスを減らせばいいと思う。</p> <p>※国の現状がよく分かって、国民の一人として真剣に考えていくべきだと思った。</p> <p>※日本は問題を先送りしていて、きちんと向き合っていないと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は財政の現状を知らせず、グループの話し合いの中で独自の発想を引き出す。</li> </ul> <p>☆財務省 HP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<del>他者の意見を聞き、</del>歳入と歳出のアンバランスや諸外国の現状等を知る。<del>知った上で、今後の日本の在り方について改めて考えさせる。</del></li> <li>・人々の願いは様々であり、主権者である国民一人一人が社会や政治、税の在り方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解さ</li> </ul>



【9班作成指導案】

	<p>※完璧な社会を作り上げることは無理でも、公平な社会を作り上げていかなければならないと思った。</p> <p>※税によるサービスが充実しているのはうれしいけれど、借金で負担を先延ばしにしていることを知って少し嫌だった。将来の人に負担を押し付けないためには増税も必要だと思う。</p> <p>※みんなが税制について完璧に納得して、誰一人不満なく暮らせる社会が理想だけれど、それはとても難しいから、一人一人がどの程度の我慢をするかということを考えていかなければならないと思う。</p> <p>※今日の授業を通して、私たちも国民の一人として考え、意見を言うことができるようになって良かった。</p> <p>3 日本の財政の現状をしったうえで、展開 1 で出た教師の発問に対する応答をグループで考え、発表する。</p> <p>※諸外国と比べると日本の税負担は少ないので、増税をして、必要な予算を確保する。</p> <p>※公債に頼りすぎるのは、将来の人に負担を押し付けることになるので、税によるサービスを減らす。国民側はそれを受け入れる。</p>	<p>せる。</p> <p>・各グループで考えることで、それらを小さな社会と見立てることができ、そこに属する個人の見方や考え方が異なれば、同じ問題に対しても各社会で違う答えが出てくることがあるということを認識させる。</p> <p>・小さなグループ(社会)であっても、その社会全体に関わる問題に対して対応を考えることの難しさを知る。</p>
ま と め	4 まとめ、質問など	

## 納税者になってみよう

(前提)

①各人の立場	②各人の収入 (所得)	③各人の願い (例)	④③の施策に必要な 予算額
高齢者の A さん	250 万円	医療費負担の軽減、介護支援等 ＝高齢社会における社会保障	※6,800 万円
育児中の B さん	500 万円	子育て支援 (児童手当、育児環 境整備) など＝少子化対策	1,600 万円
フリーターの C さん	180 万円	雇用創出、企業への補助金支給 など＝生活保障と経済効果	3,800 万円
企業経営者の D さん	2,000 万円	景気回復など＝景気の安定化	7,200 万円
災害に遭われた E さん	800 万円	住宅確保、インフラの復旧など ＝災害時の社会保障	5,300 万円
持病をもっている F さん	350 万円	医療費負担の軽減など	(※に含まれる)
介護をしている G さん	1,000 万円	介護休暇制度の充実など	(※に含まれる)
合計	5,080 万円	—	2 億 4,700 万円

(課題 1)

各人の立場	①各人の収入 (所得)	②納める税金	③理由	④税率 (②/①)
A さん	250 万円	万円		%
B さん	500 万円	万円		%
C さん	180 万円	万円		%
D さん	2,000 万円	万円		%
E さん	800 万円	万円		%
F さん	350 万円	万円		%
G さん	1,000 万円	万円		%
合計	5,080 万円	万円	—	—

【9班作成指導案】

(課題2)

※便宜上、収入＝課税所得（収入から差し引く経費なし）として計算

各人の立場	①各人の税率	②納める税金
Aさん	%	円
Bさん	%	円
Cさん	%	円
Dさん	%	円
Eさん	%	円
Fさん	%	円
Gさん	%	円
合計	—	円

(参考：所得税の税率)

※平成30年分

課税される所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円超～330万円以下	10%
330万円超～695万円以下	20%
695万円超～900万円以下	23%
900万円超～1,800万円以下	33%
1,800万円超～4,000万円以下	40%
4,000万円超	45%

税額の計算例：課税される所得金額が400万円の場合

- $195 \text{万円} \times 5\% = 97,500 \text{円}$
- $(330 \text{万円} - 195 \text{万円}) \times 10\% = 135,000 \text{円}$
- $(400 \text{万円} - 330 \text{万円}) \times 20\% = 140,000 \text{円}$
- $97,500 \text{円} + 135,000 \text{円} + 140,000 \text{円} = 372,500 \text{円}$

税額は、課税所得金額ごとの税率を掛けて計算します。